

2. 事業の概要と成果													
(1) プロジェクト目標の達成度(今期事業達成目標)	各2省の各地区(全24地区)の各地区内でインクルーシブ教育研修システムが構築され、障害ある児童の就学率が上がる。 (キンザン省、チャビン省の各地区(全24地区)の各地区内研修後、小学校と幼稚園で定期的にインクルーシブ教育研修が実施されている。)												
(2) 事業内容	<p>活動1 <u>キーティチャーの育成(各地区の指導者研修)を計画通り実施した。</u></p> <p>1) 2022年7月27日～8月5日まで、キーティチャー育成研修を、キンザン省ハーティン市で実施 キンザン省 キーティチャー33人 教育局初等教育室長、職員2人参加 チャビン省 キーティチャー30人 教育局職員1人参加 実施場所: キンザン省ハーティン市 教育室 1階ホール (中間報告書に詳細説明)</p> <p>2) 2023年2月2日～2月3日まで、キーティチャーは、ビントウアン省のモデル校で実地研修を受けた。 参加者: キンザン省教育局担当者3人、チャビン省教育局担当者2人、 キーティチャー 60人、(別添2参照)</p> <p>【3グループに分かれる】 Aグループ: 初等教育20人: ハムタン地区、タンハー小学校、 タンスン小学校 Bグループ: 初等教育17人: テュイホン地区、ファンリークー6小学校、 バックビン地区、ソンルイ3小学校 Cグループ: 幼児教育28人: ハムタン地区、ソンミー幼稚園、 ソンファン幼稚園</p> <p>活動2 <u>各小学校の校内指導教師研修を計画通り実施した。</u></p> <p>当会が結成したインクルーシブ教育専門家チームが、キンザン省とチャビン省で、各省120名(各小学校1名～3名)を対象にしたインクルーシブ教育研修を、各省1回3日間、2回実施した。(別添3参照)</p> <p>キンザン省</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス</th> <th>日付</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>2022/10/25-27</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>2022/10/26-28</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table>	クラス	日付	人数	A	2022/10/25-27	60	B	2022/10/26-28	60		合計	120
クラス	日付	人数											
A	2022/10/25-27	60											
B	2022/10/26-28	60											
	合計	120											

チャビン省

クラス	日付	人数
A	2022/10/31-11/2	60
B	2022/11/1-11/3	60
	合計	120

【3日間研修に先生を派遣した校長先生の意見】

3日間研修に参加する前、先生方は、障害ある児童の在籍するクラスを担当しなくなかった。理由は、どのように教えるのかわからないからである。また、授業は、画一指導のため、障害ある児童が学習についていけなくても、先生方は児童を放っておいた。そのため、障害ある児童は学習が上達しないで、学校を辞めるか、同じ学年を何度も繰り返した。

3日間研修に参加してから、先生方は、IEP（個別教育計画書）を作成して、障害ある児童の能力に合わせて教えるようになった。そのため、児童の学力は向上した。また、先生方は、障害ある児童に優しく接するようになった。よく褒めるようになった。そのため、障害ある児童は、学校が好きになった。以前、先生方は障害ある児童が学習しないので、よく叱っていた。

活動3 各地区の地区内研修を実施した。

キンザン省とチャビン省の63名のキーティチャーは、2週間研修後、キンザン省全15地区とチャビン省全9地区は、2022年8月末から2023年2月末の期間に、キーティチャーが講師となって、2日間から7日間の各地区内研修を実施した。（別添1参照）

活動4 各小学校と各幼稚園において、校内研修を実施した。

キンザン省とチャビン省の全小学校と全幼稚園では、地区研修に参加した教師が自身の小学校に戻り、小学校内研修を実施した。これにより、2省の全教師がインクルーシブ教育の研修を受ける事ができた。（別添1参照）

キンザン省では、13,098人の教師や学校幹部がインクルーシブ教育研修を受けた。チャビン省では、4,221人の教師や学校幹部がインクルーシブ教育研修を受けた。

活動5 各2省全地区対象モニタリングを実施した。（別添1参照）

2023年2月7日～13日まで、チャビン省9地区の小学校や幼稚園でモニタリングを実施した、2023年2月15日～23日まで、キンザン省13地区の小学校や幼稚園でモニタリングを実施した。モニタリングでは、各地区のキーティチャーや、人民委員会の担当者、教育室の担当者、校長、およそ100人にインタビューを実施した。別室では専門家が、訪問した学校の障害ある児童の保護者や、担任教師に、カウンセリングを実施した。

現在の各地区の問題は、各地区の小学校、幼稚園が、両親に診断書を取るよう勧めても、両親が診断書に同意しないというケースが多い事である。また、人民委員会の診断チームがまだ結成されていない地区もあり、そのため、病院で診断書を取ろうとしても、病院では肢体不自由児以外の児童に診断書を出してくれない等の問題がある。

先生方の問題は、1) IEP（個別教育計画書）を作成するとき的確なアセスメントが難しい。2) 高度行動障害児（ADHD）や自閉症児のクラス内での行動問題への対応が難しい。3) 障害ある児童に対しての個別教育の具体的な方法が難しい。

学校の問題は、障害ある児童を受け入れた小学校や幼稚園で、担任の先生だけが障害ある児童の教育に従事しているというケースもあり、校内のサポート体制が脆弱な学校もあった。校内にインクルーシブ教育支援チームを結成している学校もあった。

次回の研修は、このような問題を解決するために、1) 両親に対して診断書を取る事を理解してもらうためのコンサルテーション、2) 人民委員会に診断チームを結成してもらう方法、3) IEPを作成する時の的確なアセスメント、4) 障害ある児童の行動問題の対応、5) 障害ある児童に対しての個別教育の方法、6) 校内のインクルーシブ教育支援チームの結成方法、を組み込む。

活動6 キンザン省、チャビン省に車椅子9台を支援した。
チャビン省に補聴器13個を支援した。
 （中間報告書に詳細説明）

- 2022年4月15日、チャビン省教育局に13個の補聴器を贈与し、教育局は聴覚障害の8人の児童に補聴器を貸与した。
- 2022年4月15日、チャビン省教育局に車椅子5台を贈呈し、教育局は肢体不自由の児童5人に車椅子を貸与した。
- 2022年4月23日、キンザン省教育局に車椅子4台を贈呈し、教育局は肢体不自由の児童4人に車椅子を貸与した。

（3）達成された成果

成果を測る指標		事業1年目 * 診断書（無） & 診断書（有）	事業2年目 * 診断書（無） & 診断書（有）	事業3年目 * 診断書 （有）の児童のみ
近隣の小学校に通う障害ある児童の数。	キンザン省	177人	280人	197人
	チャビン省	325人	420人	392人
障害ある児童を受け入れた小学校の教師のうち、個別ファイルや、IEP（個別教育計画書）を作成している教師の数。	キンザン省	147人	181人	197人
	チャビン省	318人	413人	377人

学力が向上した小学校の障害ある児童の数。	キンザン省	100 人	210 人	162 人
	チャビン省	187 人	273 人	347 人
近隣の幼稚園に通う障害ある児童の数。	キンザン省	4 人	6 人	12 人
	チャビン省	15 人	21 人	22 人
障害ある児童を受け入れた幼稚園の教師のうち、個別ファイルや、IEP(個別教育計画書)を作成している教師の数。	キンザン省	4 人	6 人	14 人
	チャビン省	9 人	19 人	22 人
生活能力が向上した幼稚園の障害ある児童の数。	キンザン省	4 人	6 人	9 人
	チャビン省	10 人	21 人	22 人

* 事業実施前、診断書を有している障害ある児童は、肢体不自由児だけであったが、事業実施によって、学校は、診断書のある児童には I E P (個別教育計画書) を作成するという国の方針を学習して、診断書を取る努力をするようになる。事業 2 年目は、人民委員会が診断書を発行する仕組みがまだできていないため、診断書発行が難しい地区も多くあった。上記の表から、事業 3 年目の障害ある児童の数は、2 年目より少なくなるが、これは診断書のある児童もない児童も、障害ある児童と認定していた 2 年目と違い、3 年目は、診断書のある児童のみを、障害ある児童と認定して、国にデータを報告するからである。

【SDGs の視点：4. 質の高い教育を皆に】

実施事業に対する、チャビン省教育局副局長、キンザン省教育局副局長のコメント

本案件 2 年間を通じて、キンザン省では、13,098 人の教師や学校幹部がインクルーシブ教育研修を受けた。チャビン省では、4,221 人の教師や学校幹部がインクルーシブ教育研修を受けた。

学校にとっては、インクルーシブ教育の重要性およびその意義が理解でき、学校の幹部をはじめ、教師、事務方などまでインクルーシブ教育への認識や教える方法などが向上できた。

保護者および地域の人にとっては、インクルーシブ教育への正しい理解を持つようになり、学校と積極的に協力している。

(4) 持続発展性

キンザン省とチャビン省では、キーティチャー育成研修後、研修に参加した各地区 2 名～3 名のキーティチャー（合計 63 名のキーティチャー）が、自身の地区で地区研修を実施し、全地区で地区研修は実施された。その後、地区研修に参加した各小学校 2 名～3 名（校長、副校長、学年主任）、幼稚園（園長、副園長、学年主任）2 名～3 名の代表参加者は、自身の小学校や幼稚園で校内研修を実施し、全小学校と全幼稚園で研修が実施された。これにより省内の小

学校、幼稚園の全教師が研修を受けられた。

来年度以降も、キーティチャー育成研修を受けた63人のキーティチャーは、各地区内で地区研修を継続的に実施していく。この地区研修に参加した地区内の小学校、幼稚園の校長や副校長は、自身の学校で、校内研修を継続的に実施していく。このように各地区内研修、各学校内研修が、事業終了後も、毎年実施される事によって、事業の目的である「キンザン省、チャビン省の小学校、幼稚園のインクルーシブ教育研修システムの構築事業」が達成される。